

2021年度の授業

受講者数は、131人でした。当初1クォーターのみの開講でしたが、受講希望者数が多かったため3クォーターにも追加開講し、1クォーターでは74人、3クォーターでは57人が受講しました。

各グループは、次のような地域課題に取り組みました。

地域の魅力発信／中山間地域の地方創生／香川県における若者流出を防ぐ／人口減少による雇用先・労働力の不足／核家族の負担軽減／地域医療と高齢化／農業人口の減少と耕作放棄地の増加／空き家の増加／岡山県におけるシャッター街、空き家、空き店舗の改善／交通事故抑制

受講者の感想

- ◆ D・R・I それぞれの観点からアプローチして課題を設定し解決策を考えることで、物事に対するさまざまな視点を獲得することができたと思います。またグループ発表では他のグループの意見や考えを聞いて、自分たちにはなかったアプローチの仕方をしており新たな発見がたくさんありました。この授業で学んだことを他の授業や日常生活のなかで活かしていきたいと思います。（法学部1年生）
- ◆ DRIの観点をを用いて課題解決に取り組んでみると、DRIの観点が無かった時とは全く新しい角度からも課題について見ることができ、より良い発表をすることにつながったと思う。このDRIの考え方は、これから社会人になっていくなかで応用できると思う。この授業では、いろいろな考え方をを持った人が集まったグループ内でうまくコミュニケーションを取りながら、課題解決に向けて一緒に協力することも学ぶことができた。（農学部1年生）
- ◆ DRIについて学ぶ中で、日常における小さな問題や課題にも応用して用いることができると感じた。「誰がどんなふうに困っていて、どうなることを望んでいるのか」を明確にした上で解決策を多く出し、各リスクを考え、情報を得て、実行してみて、また考える。DRIには一時的なゴールはあっても、終わりはないものであると感じた。今後は、社会的な問題を解決するために、自分ができる小さな活動は何があるのかを考え、行動できるようになりたいと思う。（医学部1年生）